

3-a

入院患者の転倒・転落発生率

指標の意義

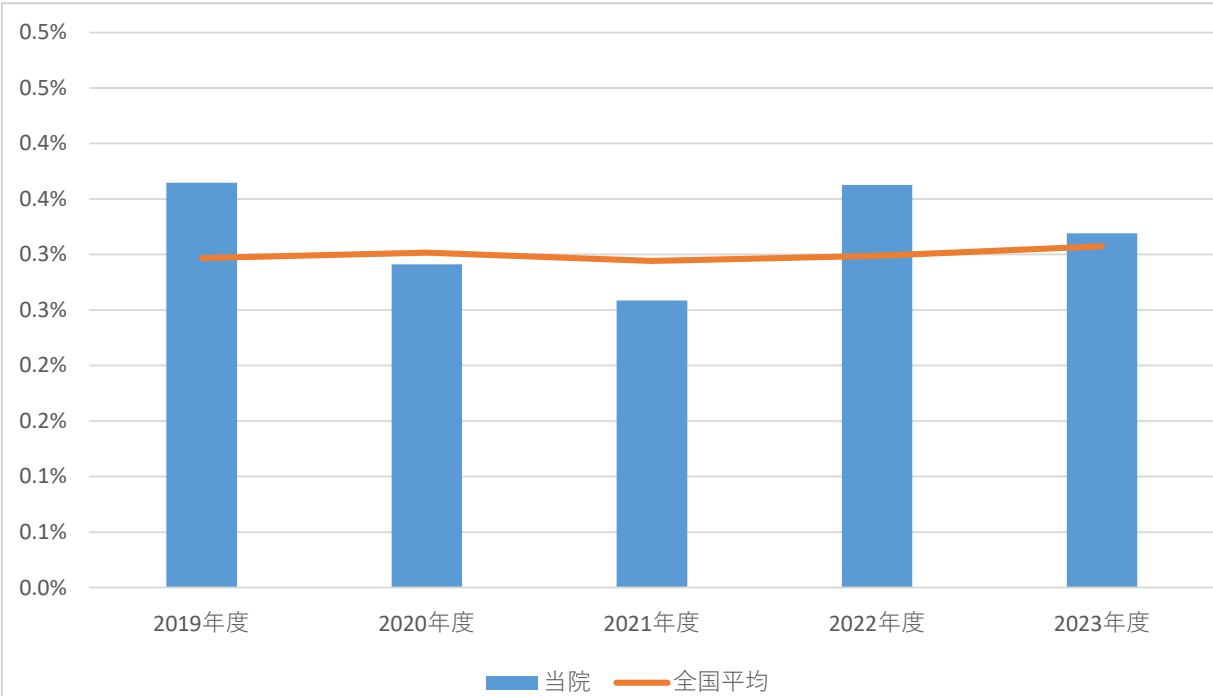
入院中の患者の転倒やベッドからの転落は少なくありません。原因としては、入院という環境の変化によるものや疾患そのもの、治療・手術などによる身体的なものなどさまざまなものがあります。事例分析から導かれた予防策を実施して転倒・転落発生リスクを低減していく取り組みが、転倒による傷害予防につながります。

定義

分母：入院延べ患者数
分子：医療安全管理室へインシデント・アクシデントレポートが提出された転倒・転落件数

当院の実績

	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
分母値	106,132	97,553	101,357	104,478	104,388
分子値	387	284	262	379	333
数値	0.4%	0.3%	0.3%	0.4%	0.3%



指標の説明

より低い値が望ましいとされます。
医療安全管理体制が整備されていることが入院基本料の基準のひとつです。
入院中の患者の転倒やベッドからの転落は少なくありません。原因としては、入院という環境の変化によるものや疾患そのもの、治療・手術などによる身体的なものなどさまざまなものがあります。
全国平均と比較しても同等の発生頻度でした。
当院は身体的拘束最小化の取り組みを2018年から開始しております。患者さんに寄り添うことを理念として看護を行っています。

3-b

入院患者の転倒・転落による損傷発生率（損傷レベル2以上）

指標の意義

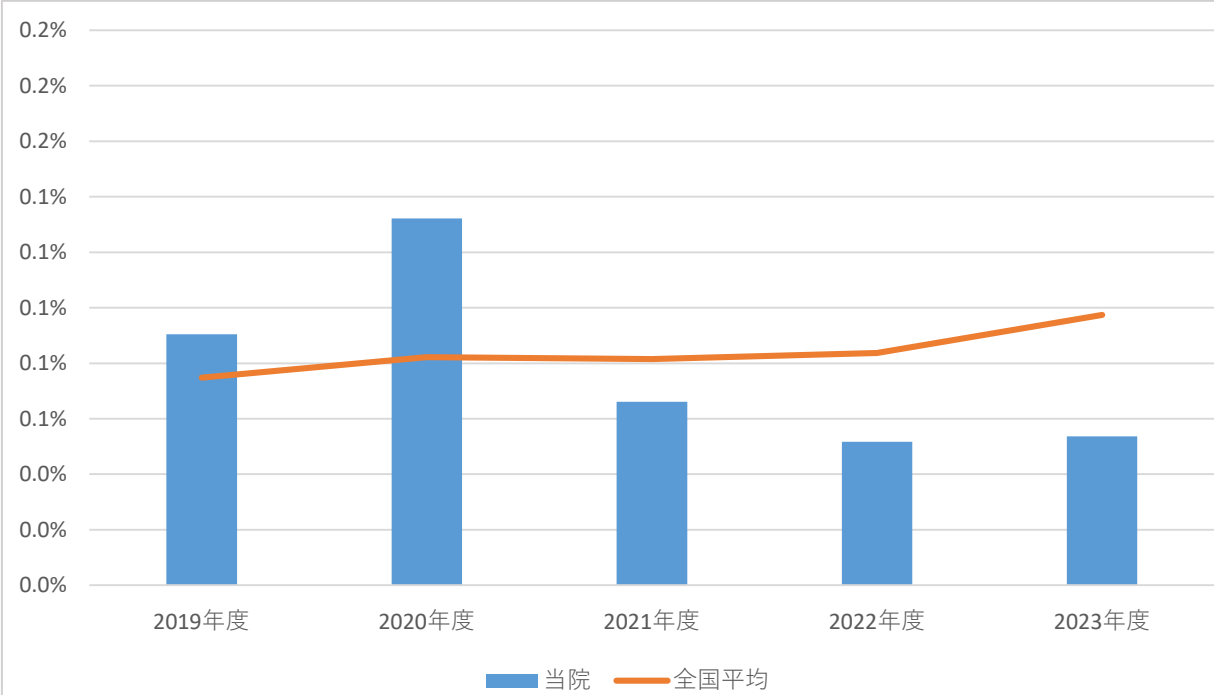
入院中の患者の転倒やベッドからの転落は少なくありません。原因としては、入院という環境の変化によるものや疾患そのもの、治療・手術などによる身体的なものなどさまざまなものがあります。事例分析から導かれた予防策を実施して転倒・転落発生リスクを低減していく取り組みが、転倒による傷害予防につながります。

定義

分母：入院延べ患者数
分子：医療安全管理室へインシデント・アクシデントレポートが提出された転倒・転落件数のうち損傷レベル2以上の件数

当院の実績

	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
分母値	106,132	97,553	101,357	104,478	104,388
分子値	96	129	67	54	56
数値	0.1%	0.1%	0.1%	0.1%	0.1%



指標の説明

より低い値が望ましいとされます。
入院中の患者の転倒やベッドからの転落は少なくありません。原因としては、入院という環境の変化によるものや疾患そのもの、治療・手術などによる身体的なものなどさまざまなものがあります。
転倒・転落の損傷レベルについてはThe Joint Commission の定義を使用しています。2019,2020年はやや全国平均を上回りましたが、比較しても同等未満の発生頻度でした。
当院は身体的拘束最小化の取り組みを2018年から開始しております。患者さんに寄り添うことを理念として看護を行っています。

3-c

入院患者の転倒・転落による損傷発生率（損傷レベル4以上）

指標の意義

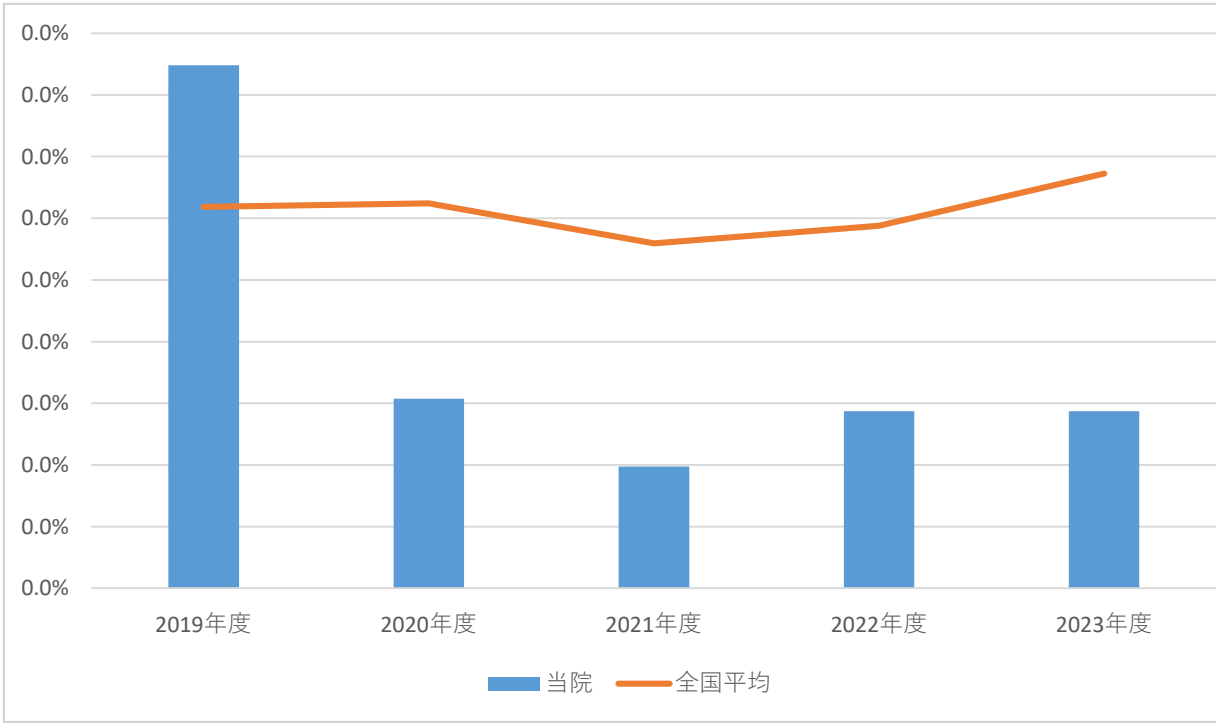
入院中の患者の転倒やベッドからの転落は少なくありません。原因としては、入院という環境の変化によるものや疾患そのもの、治療・手術などによる身体的なものなどさまざまなものがあります。事例分析から導かれた予防策を実施して転倒・転落発生リスクを低減していく取り組みが、転倒による傷害予防につながります。

定義

分母：入院延べ患者数
分子：医療安全管理室へインシデント・アクシデントレポートが提出された転倒・転落件数のうち損傷レベル4以上の件数

当院の実績

	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
分母値	106,132	97,553	101,357	104,478	104,388
分子値	9	3	2	3	3
数値	0.008%	0.003%	0.002%	0.003%	0.003%



指標の説明

より低い値が望ましいとされます。
入院中の患者の転倒やベッドからの転落は少なくありません。原因としては、入院という環境の変化によるものや疾患そのもの、治療・手術などによる身体的なものなどさまざまなものがあります。
転倒・転落の損傷レベルについてはThe Joint Commission の定義を使用しています。

3-d

65歳以上の入院患者における転倒・転落発生率

指標の意義

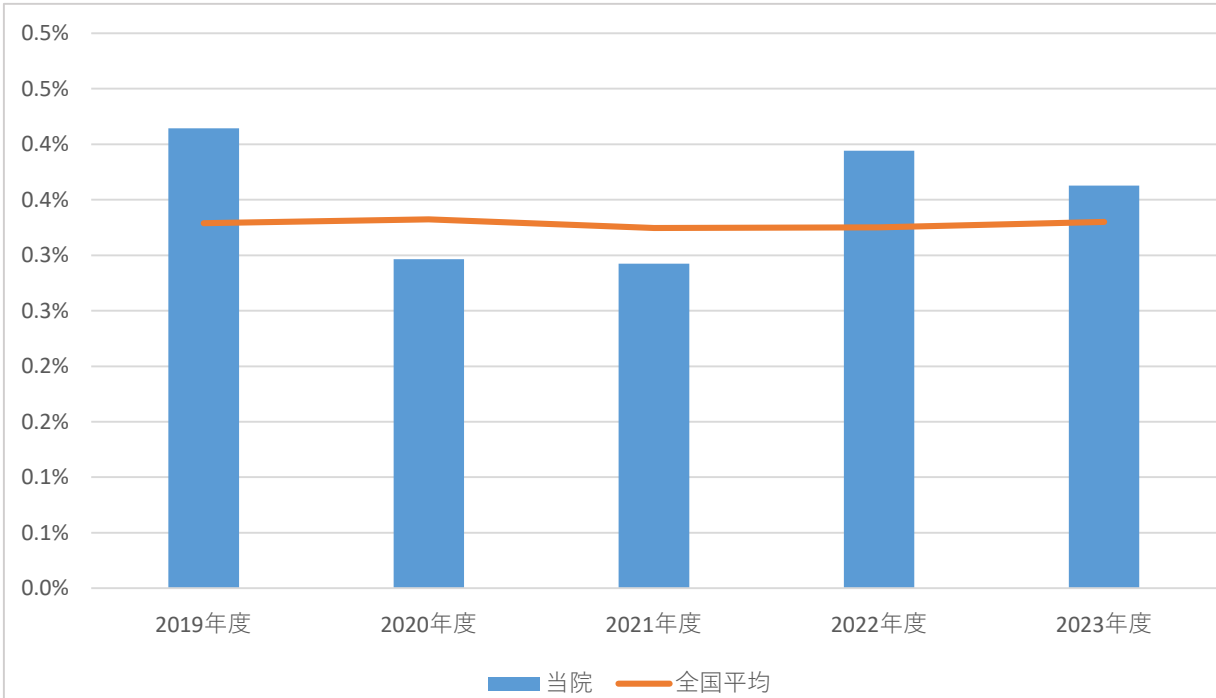
入院中の患者の転倒やベッドからの転落は少なくありません。原因としては、入院という環境の変化によるものや疾患そのもの、治療・手術などによる身体的なものなどさまざまなものがあります。事例分析から導かれた予防策を実施して転倒・転落発生リスクを低減していく取り組みが、転倒による傷害予防につながります。

定義

分母：65歳以上の入院患者延べ数
分子：65歳以上の入院中の患者に発生した転倒・転落件数

当院の実績

	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
分母値	80,111	74,559	75,900	81,935	78,816
分子値	332	221	222	323	286
数値	0.4%	0.3%	0.3%	0.4%	0.4%



指標の説明

より低い値が望ましいとされます。
医療安全管理体制が整備されていることが入院基本料の基準のひとつです。
入院中の患者の転倒やベッドからの転落は少なくありません。原因としては、入院という環境の変化によるものや疾患そのもの、治療・手術などによる身体的なものなどさまざまなものがあります。
全国平均と比較しても同等の発生頻度でした。対象を65歳以上にすることで、やや発生率が上昇しました。
当院は身体的拘束最小化の取り組みを2018年から開始しております。患者さんに寄り添うことを理念として看護を行っています。

指標の意義

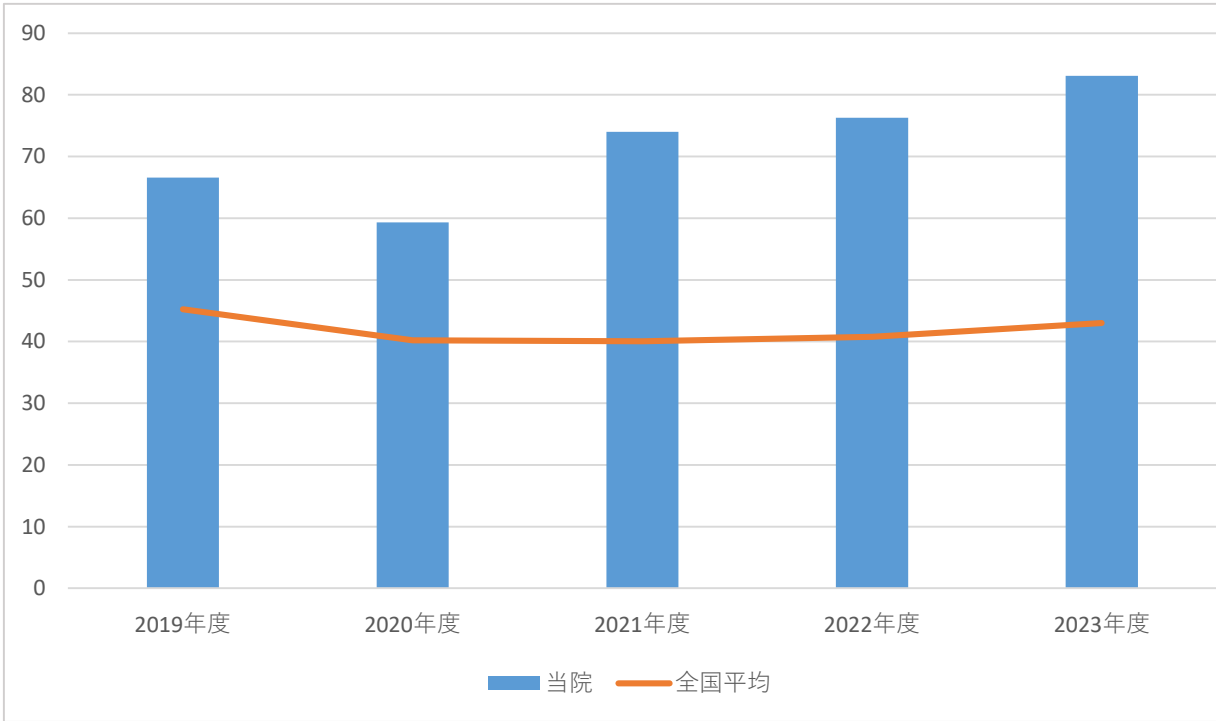
身体への侵襲を伴う医療行為は常にインシデント・アクシデントが発生する危険があります。その発生をできる限り防ぐことは医療安全の基本です。仮にインシデント・アクシデントが生じてしまった場合、原因を調査し、防止策をとることが求められます。そのためにはインシデント・アクシデントをきちんと報告することが必要です。

定義

分母：許可病床数
分子：調査期間中の月毎のインシデント・アクシデント報告件数×100

当院の実績

	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
分母値	3,600	3,600	3,600	3,600	3,600
分子値	197,400	239,700	213,600	266,400	274,600
数値	54.83333	66.58333	59.33333	74	76.27778



指標の説明

医療安全は、「失敗から学ぶ」姿勢が重要です。重大事故のみならず軽微な(ヒヤリハット)事故を積極的に報告することにより、安全文化の醸成を図ることができます。

当院のインシデント報告件数は、日病QI参加施設(200-399床)の平均値より上回っており、年々増加傾向にあります。2023年度は、患者影響度レベル0(ヒヤリハット報告)の報告を積極的に行うよう職員研修や各部門の会議等で周知を図りました。

指標の意義

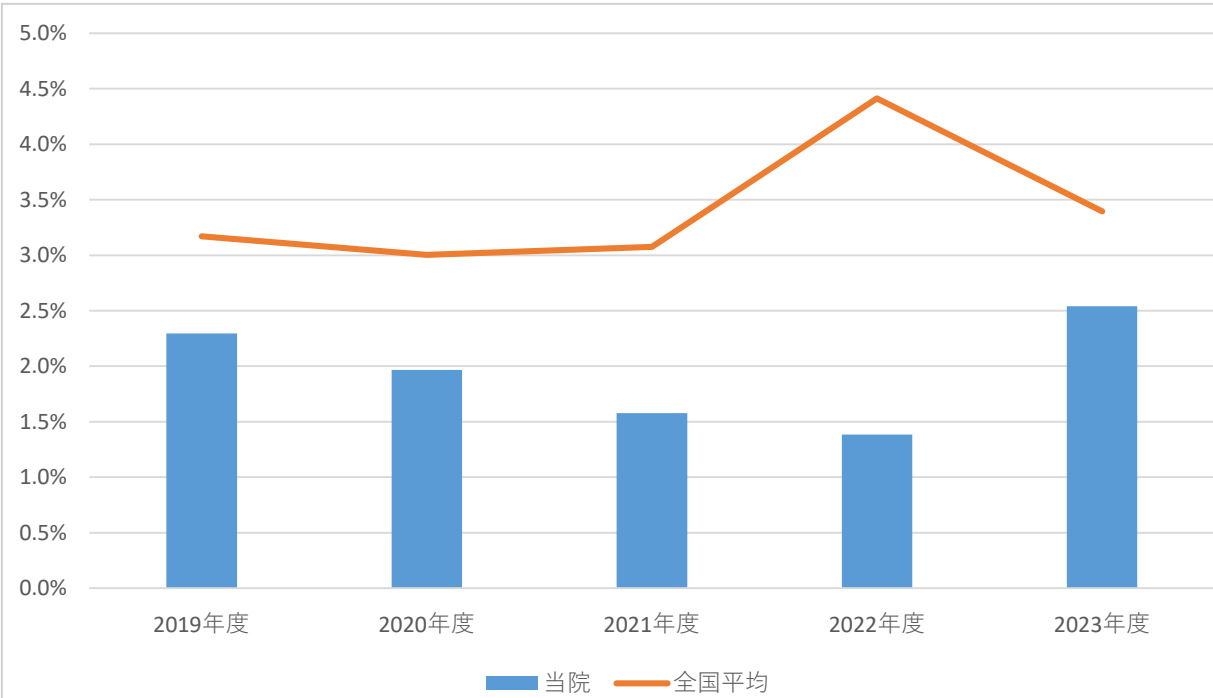
身体への侵襲を伴う医療行為は常にインシデント・アクシデントが発生する危険があります。その発生をできる限り防ぐことは医療安全の基本です。仮にインシデント・アクシデントが生じてしまった場合、原因を調査し、防止策をとることが求められます。そのためにはインシデント・アクシデントをきちんと報告することが必要です。一般に医師からの報告が少ないことが知られており、この値が高いことは医師の医療安全意識が高い組織の可能性にあります。

定義

分母：調査期間中の月毎のインシデント・アクシデント報告総件数
分子：分母のうち医師が提出したインシデント・アクシデント報告総件数

当院の実績

	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
分母値	2,397	2,136	2,664	2,746	2,991
分子値	55	42	42	38	76
数値	2.29%	1.97%	1.58%	1.38%	2.54%



指標の説明

重大事故のみならず軽微な(ヒヤリハット)事故を報告する安全文化があるかどうかを図る指標です。
一般に医師からの報告件数が少ないといわれていることから、医師の安全意識を知る指標です。
医師からのインシデント報告は、日病QIプロジェクト参加施設(200-399床)の平均値より下回っており、報告が他の職種より少ないことから、診療部連絡会議等で周知し医療安全対策への参加を促しています。